

平成 28 年度 校外研修会

江戸東京たてもの園 深大寺

研修部 立澤佑良

六月二十一日の学習会で今年の校外研修を「江戸東京たてもの園」と「深大寺」とすることを告知し本格的な準備に入りました。七月二十日の学習会で参加者募集を行い募集定員の135名が登録されました。例年、若干の辞退者が出ますので、九月二十一日の学習会でキャンセル待ち募集を行い、十月十二日に実施しました。九月から続く天候不良が嘘の様に晴上り、今年初めての秋空に恵まれ散策には最高の日和となりました。三台のバスに分乗し出発。江戸東京博物館の姉妹園である江戸東京たてもの園は80 haの広大な小金井公園の一角に7 haの広さを持ち西ゾーン、センターゾーン、東ゾーンに分かれています。旧武蔵野郷土館から引き継いだ武蔵野を代表する近世の建築物が西ゾーンに、東ゾーンにはレトロな街並みが都内各地から集められ展示されています。屋外展示には都電、皇居正門石橋飾電燈、万世橋交番等懐かしい物、今となっては貴重な物が見学できました。



6 班に分かれそれぞれボランティアガイドの丁寧な説明を受けながら、時間の経つのも忘れ豪農、豪商、高級官僚の居家等を見学、例えば、江戸期に名主役を勤めた天明家は千鳥破風を持つ農家であり、囲炉裏では茅拭屋根を維持するため、ボランティアの方が薪で自在鉤に掛けた鉄瓶でお湯を沸かして居ました。

(木酢等を噴霧では無く、ここは昔ながらの方法で感心しました。)名主の権力の大きさを長屋門が示し、破風が威厳を、枯山水庭園は余裕を感じさせる。この様に各建物は特徴が在り時代の流れと郷愁を感じながら見学、

有意義な時間を過ごしました。

再びバスに乗車、深大寺に向かう。

140名近い人が一度に入れる店は青木屋以外になく事前に下見で訪問し打合せていたが、一番心配だった時間も予想より早めに対応して戴きホットしました。秘密は五右衛門風呂のような大きな釜！食事が済んだ方からグループを構成して八人のボランティアガイドさんの案内で出発、733年(奈良時代)満功上人が法相宗の寺として開山、859年(平安時代)天台宗に改宗。神道信仰の水神様と仏教の守護神の深沙神が習合した地に深大寺は創建された。豊富な湧水と蕎麦の栽培の適地であった事から寺では蕎麦を打って来客をもてなしたので有名になった。等の説明を受けながら有意義に見学できた。研修中ご協力いただきました会員の皆様と理事の皆様に篤くお礼申し上げます。